

学科 学年	D 2	科目 分類	工学技術セミナー Engineering Technology Seminar	講義 必修	通年 2 履修単位	学習教育 目標 A 1	担当	電子制御工学科全教員
概 要	工学技術者として学習する動機付けを行うとともに、技術者倫理を学び、公衆の安全、健康、福祉を最優先とする技術者として行動する資質の涵養に資することを本授業の目的とする。この目的を達成するために、学生自身による調査、報告、討論を中心に据えた授業となる。課題担当教員は原則として一人につき3回の授業時間を受け持つものとする。							
科目目標 (到達目標)	1. 自分で問題点を見つけることができる。2. 自分で必要な資料を探することができる。3. 教員の援助を得て、問題を再構築することができる。4. 自分が意識した問題を、図や表を使ったり、文章を箇条書きにしたりして、他人にわかりやすく説明できる。							
教科書 器材等	新・技術者になるということ Ver.4 飯野 弘之著 雄松堂出版							
評価の基準と 方法	1. 課題を理解し、必要な文献等を調べて、報告書を作成する。(50%) 2. 問題点を指摘し、討論、考察を経て問題を再構築し、発表する。(30%) 3. 中間試験(10%), 4. 期末試験(10%)							
関連科目	ホーム・ルーム							
授業計画								
	参観	(授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)						
第 1回		ガイダンス：授業の意義、高専で学ぶということ、職業としての技術者、授業の進め方						
第 2回		ガイダンス：いろいろな見方、企業の欲しがる人材、時間の有効活用、新規性とは						
第 3回		これまでとこれからの日本：曲がり角にきた日本経済						
第 4回		これまでとこれからの日本：産業構造の変化						
第 5回		これまでとこれからの日本：社会環境の変化						
第 6回		これまでとこれからの問題点：日本の国際競争力						
第 7回		これまでとこれからの問題点：情報通信技術(IT)						
第 8回		これまでとこれからの問題点：新しい生命倫理、						
第 9回		地球の持続可能性(Sustainability)：人口、食料、エネルギー						
第10回		地球の持続可能性(Sustainability)：日本の公害						
第11回		地球の持続可能性(Sustainability)：地球環境問題						
第12回		研究開発：企業における研究開発						
第13回		研究開発：大学・高専における研究開発						
第14回		研究開発：基礎研究、応用研究、開発研究						
第15回	×	前期期末試験						
第16回		研究開発から新商品の開発・上市まで：新商品の開発						
第17回		研究開発から新商品の開発・上市まで：商品の製造、P L 法						
第18回		研究開発から新商品の開発・上市まで：産業財産権、特許、知的財産権						
第19回		技術者と技術開発：社会人としての技術者、基本的マナー						
第20回		技術者と技術開発：個人と仕事						
第21回		技術者と技術開発：安全について						
第22回		技術者倫理：問題提起						
第23回		技術者倫理：事例紹介						
第24回		技術者倫理：事例検討						
第25回		技術者倫理：宗教と価値観						
第26回		技術者倫理：技術者の責任						
第27回		技術者倫理：倫理規約						
第28回		技術者倫理：再び問題提起、事例紹介						
第29回		技術者倫理：事例検討						
第30回	×	後期期末試験						

オフィス アワー	授業実施の週、16:30～17:00 を各課題担当教員の研究室で行う。
授業アンケート への対応	適宜、学生の授業への要望を聴取し、次回の授業に活かすようにする。
備 考	授業計画は学生の要望を反映して、変更することがある。
更新履歴	060116新規